

## 紫斑病防除は開花期を判定して適期を逃さずに！

中耕・培土は開花の10日前までに終わらしましょう

### 1 開花期を想定した作業計画

#### (1) 開花期の判定方法と開花時期の推定

大豆栽培において、中耕培土や防除作業は開花期によって適期がことなりますので正確な開花期判定が必要となります。

また、外から見て開花がわかるような状態だと開花期を4日以上過ぎていていると考えられ、この場合、開花期を見誤り適期防除が出来ない事が想定されます。

については、開花時期を生育の進み具合や花芽分化期から推定するとともに、開花期の正確な判定を行いながら作業計画を立ててください。

#### (2) 正確な開花期を判断することで得られる利点

- 開花期からの日数を防除の基準とする病害虫に対して、適期防除が可能となる。
- 培土を遅くとも開花の10日前に終了できる作業計画を固めることができる。
  - ① 中耕・培土は原則として、開花の10日前までに終わることで、落花などの影響を抑えられる。
  - ② 紫斑病の防除を適期に行うことができる。

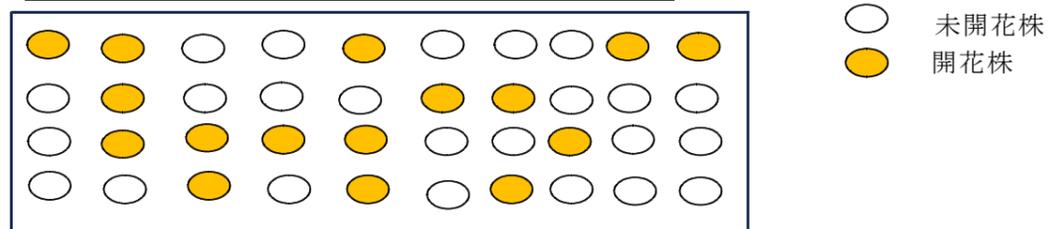
<栽培管理ミニ情報>

#### 開花期の判定方法

大豆開花期の定義 → 「全株数の40~50%が開花始めに達した日」

- 1株当たりでは、1つでも花がみられたものは開花とみなします。
- ほ場では、開花とみなした株が全体の40~50%に達した日を、開花期とします。
  - ・ 下記の図を参考に各株で1つでも開花している株が半数に達した場合を開花期とします。(2粒播きであっても、その株内で一輪でも咲いていたらカウントする。)

イメージ図 (全株数40に対し開花株16=全体の40%)



### 2 当面の害虫防除 (7月下旬~8月中旬)

うら面を参照

ほ場内を注意深く観察し、発生状況を見極めて適正に防除を行う。

- ウコンノメイガ  
多くの株で巻葉がみられ始めた場合に、次の剤により防除する。

薬剤名	施用量	施用時期
プレバソフロアブル5	4,000倍液 150~300ℓ/10a	7月下旬~8月上旬

- アブラムシ類  
発生が多くみられる場合、次の剤により防除する。

薬剤名	施用量	施用時期
アディオン乳剤	3,000倍液 150ℓ/10a	7月下旬~8月中旬

#### ○ 紫斑病

防除は2回行うが、1回目は左記(栽培管理ミニ情報)に示してある方法により開花期判定を行ったうえで、実施する。

1回目の防除は開花時期に応じて、次のいずれかの剤で行う。

#### (1) 防除時期

開花期	第1回防除時期	特記事項
7月下旬より早い	開花時期から20日後(8月上旬)	2回目の防除も開花期により時期が異なる。
7月下旬以降	8月下旬	

#### (2) 施用薬剤

防除体系	施用薬剤	施用量
地上防除	プランダム乳剤25	3,000倍液 150~300ℓ/10a
	フセキフロアブル	4,000倍液 150~300ℓ/10a
無人航空機防除	プランダム乳剤25	16~24倍液 0.8ℓ/10a
	フセキフロアブル	24~32倍液 0.8ℓ/10a

### 3 中耕・培土作業

培土は原則として、開花の10日前までに終わること。これ以降に行うと、落花などの影響が出やすくなるので注意すること。

### 4 水管理作業

花芽分化期(開花期の7日程度前)から開花後42日までの期間(7月20日頃~9月10日頃)は、高温少雨の場合、作柄への影響が大きいので、1か月気象予報を参考に暗渠操作等で地下水位の調整や給水を行ってください。

### 5 気象情報

- 気象庁の1か月予報(5/31~6/30)によると
  - ・ 暖かい空気に覆われやすいため、気温は高い見込み。
  - ・ 降水量、日照時間はほぼ平年並みの見込み。

### 6 病害虫の発生予察情報

- 秋田県病害虫防除所が5月27日発表した6月の主な病害発生予報は次のとおり。

病害虫名	発生時期	発生量
ネキリムシ類	平年並(前年より遅い)	平年並(前年よりやや少ない)
食葉性鱗翅目幼虫	—	平年並(—)



産米改良協会 採種情報ページ

次号予定：技術情報は適宜行います。

# 大豆採種ほ病害虫防除体系（令和7年度版）

開花期を見極めて防除パターンを変えましょう。

(薬剤量は10アール当たり)

判断条件	防除体系	対象病害虫	7月		8月		9月	
			下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	
開花が	7月21日より 早い場合	地上防除	紫斑病 (2回)	開花期から20日後ころ 次のいずれか ブランドム乳剤25 (3,000倍液 150~300ℓ) フセキフロアブル (4,000倍液 150~300)		8月下旬 次のいずれか ジマンダイセン水和剤 (400倍液150~300ℓ) ペンコゼフ水和剤 (400倍液 150~300ℓ)	ジマンダイセン ペンコゼフ	
		地上防除	カメムシ類 マメシクイガ (2回)		8月下旬 パーマチオン水和剤 (2,000~3,000倍液150~300ℓ) ※ ペンコゼフ剤と混用不可	9月上旬 パーマチオン水和剤 (2,000~3,000倍液150~300ℓ)		
		無人航空機防除	紫斑病 (2回)	開花期から20日後ころ 次のいずれか ブランドム乳剤25 (16~24倍液 0.8ℓ) フセキフロアブル (24~32倍液 0.8ℓ)		8月下旬 ニマイバー水和剤 (8~16倍液 0.8ℓ) ※トレボン剤と混用不可	ニマイバー	
		無人航空機防除	カメムシ類 マメシクイガ (2回)		8月下旬 次のいずれか スミチオン乳剤 (8倍液 0.8ℓ) トレボンエアー (8倍液 0.8ℓ) トレボンスカイMC (8倍液 0.8ℓ)	9月上旬 (マメシクイガ用) プレバソフロアブル5 (16倍液 0.8ℓ)		
	7月21日以降の 遅い場合	地上防除	紫斑病 (2回)		8月下旬 次のいずれか ブランドム乳剤25 (3,000倍液 150~300ℓ) フセキフロアブル (4,000倍液 150~300)		9月上旬 次のいずれか ジマンダイセン水和剤 (400倍液150~300ℓ) ペンコゼフ水和剤 (400倍液 150~300ℓ)	
		地上防除	カメムシ類 マメシクイガ (2回)		8月下旬 パーマチオン水和剤 (2,000~3,000倍液 150~300ℓ)		9月上旬 パーマチオン水和剤 (2,000~3,000倍液150~300ℓ) ペンコゼフ剤と混用不可	
		無人航空機防除	紫斑病 (2回)		8月下旬 次のいずれか ブランドム乳剤25 (16~24倍液 0.8ℓ) フセキフロアブル (24~32倍液 0.8ℓ)		9月上旬 ニマイバー水和剤 (8~16倍液 0.8ℓ)	
		無人航空機防除	カメムシ類 マメシクイガ (2回)		8月下旬 次のいずれか スミチオン乳剤 (8倍液 0.8ℓ) トレボンエアー (8倍液 0.8ℓ) トレボンスカイMC (8倍液 0.8ℓ)		9月上旬 (マメシクイガ用) プレバソフロアブル5 (16倍液 0.8ℓ)	
ウコンノメイガ (多くの株で巻葉がみられ始めたら)			7月下旬~8月上旬ころ プレバソフロアブル5 (4,000倍液 150~300ℓ)					
アブラムシ類 (発生が多くみられたら)			7月下旬~8月中旬ころ に1回まで アディオソ乳剤 (3,000倍液 150ℓ)					